

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270600269		
法人名	社会福祉法人 花の村		
事業所名	グループホーム 合歓の郷		
所在地	島根県江津市後地町834-1番地 (電話) 0855-55-1203		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成20年6月16日	評価確定日	平成20年6月30日

## 【情報提供票より】 (20年5月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤4人, 非常勤8人, 常勤換算6、0人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 円 )	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 )	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要 (5月29日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	3名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87, 6歳	最低 80歳	最高 98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院・花田医院・永井歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉入浴や毎朝の「お参り」、介護相談員の受け入れなど、同ホームならではのサービスを提供している開設5年目のホームである。地域の中での役割を職員全員が理解し、「笑顔と聴くこと」に力を入れて利用者と向き合っている。今年から始められた「気づきメモ」の作成は、職員の気づきに理事長がコメントし意識的にケアを振り返る機会となっている。職員は仲がよくそれが利用者にも反映して、利用者は希望に沿った安心した生活を送っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	①「入浴支援」は、週3回から毎日希望に沿った支援に改善された。②「日常的な外出支援」は買い物など外出の機会が増えた。③「備蓄」も準備されている。「同業者との交流」などは引き続き検討課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で話し合いを行い、意見を聞きながら自己評価を行った。改善課題を共有しながら情報交換を行い改善への取組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の状況やホームの活動、外部評価、介護相談員の活動などを報告し意見交換を行っている。新たに駐在所からも参加してもらうことになった。非常時の協力体制について意識づけができ継続課題になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や運営推進会議、面会時に意見を聞いている。家族からは洗濯物のことなど気づいたことが出されている。民生児童委員や婦人会長など第三者委員を設置して家族が言いやすい工夫をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	文化祭や敬老会、お寺の法座などに積極的に参加している。文化祭には刺し子などの利用者の作品を展示した。ホームのお茶会に地域の人が参加したり、高校生や婦人会のボランティアがあり連携に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と共存しながら「人生を全うするおてつだい」をするという、地域密着型としての理念を明確に持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時や会議の時に理念を確認しあっている。今年から「気づきメモ」を作成し、毎日職員が書き込んだ気づきに理事長がコメントし、ケアの振り返りを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭や敬老会、お寺の法座などの地域行事や、ホームのお茶会などの活動をとおして積極的に交流を図っている。高校生や婦人会などのボランティアもある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し職員全員で自己評価に取り組んだ。職員同士で情報交換が行われるようになり、改善への取り組みが行われている。	○	さらに、自己評価を年間計画に位置づけ計画的に取り組む工夫を望みたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動内容を詳しく報告し意見交換を行っている。非常時の協力体制について意識づけができ継続課題となっている。	○	2ヶ月に一回の開催を目指し、さらに運営推進会議の役割が発揮されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と電話で相談するなど連携に努めている。ホームだよりは市町村には届けていない。	○	市町村と共にサービスの質の向上に取り組むために、個人情報保護や利用目的を明らかにしながら家族とも話し合いを重ね、積極的な情報提供が望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、写真入りのたよりに利用者の「ちょっとしたこと」を書き添えて送り家族から喜ばれている。また、訪問時や電話での報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で家族の意見を聞いている。相談や苦情が言いやすいように民生児童委員や婦人会長など第三者委員を複数で設置し家族に知らせている。	○	苦情相談窓口も明確で意見の引き出しに努力されているが、さらに家族の意見が運営に反映されるような工夫を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の定期異動があるがホームの特性を考慮して行われている。新しい職員には研修や指導を十分行い、経験のある職員が指導にあたりながら利用者との関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修プロジェクトがあり、テーマごとに全職員が参加している。外部研修にも積極的に参加し、内容は共有されている。夜勤専門の職員もできるだけ参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修などで知り合った同業者と情報交換をしている。法人内の研修体制が確立されていて、現在は地域の同業者との交流は考えていない。	○	地域の同業者と協力しながらネットワークづくりや交流の機会をもち、地域全体のサービスの質の向上に貢献していただきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にデイサービスや入所先の施設を訪問して顔見知りになったり、ホームを見学してもらい納得しての利用になっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として敬い、料理や洗濯物の干し方などの家事や生活の知恵を教わっている。一緒に笑うことが多く利用者から癒されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時やお茶の時間など、ゆっくり話を聞いている。施設長や介護相談員が思いを聞き、退居した人に会いに行きたいという利用者の希望を実現したことがある。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用して利用者の課題を把握し計画を立てている。利用者や家族の思いを計画に反映させ具体的な内容になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員と話し合い計画の見直しを行っている。見直しの記録の方法について検討課題になっている。	○	記録しやすい方法が模索されているので期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や入院時の送迎など、利用者や家族の状況に応じ柔軟に対応している。現在、空き部屋を利用しての短期入所の手続きをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の納得したかかりつけ医になっている。夜間対応も可能で相談しやすい。利用者によって通院や往診が定期的に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして重度化や終末期に向けての方針を持っていて、ターミナルケアの研究プロジェクトチームを組み、話し合いを行っている。	○	早い時期から家族や関係者とも話し合いを重ね、ホームの役割が最大限に活かされることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレの誘導時には大きな声を出さないよう気をつけている。個人の情報を外部に漏らさないよう周知徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴の仕方など、利用者のペースを尊重した対応を心がけている。「散歩したい」「食事作りをしたい」など、利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、利用者の状態に合わせて職員と一緒にしている。鮮やかにごぼうのさがきを作っている利用者もいた。職員も同じ物を食べ会話をしながら支援していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	併設の温泉を利用し、利用者の希望に沿った入浴支援をしている。仲のいい人同士での入浴や、ゆっくり入りたい人には希望に合わせて対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、調理、縫い物、お茶など、利用者の力が活かせる場面がある。毎朝行われる「お参り」での読経や導師さんの話は利用者の心の拠り所になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を大切にし、散歩やドライブ、買い物、お寺参りなど、外出の機会が増えている。毎日散歩に出かけ公民館で好きな歌を歌って帰る人もいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。外出される時は職員同士が連携し同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施や、マニュアルの作成、内部の連絡網の作成、避難経路の確認、備蓄などを行った。地域との協力体制はこれからの課題になっている。	○	運営推進会議で地域の連絡網の作成や地域との避難訓練の実施などについて話し合う計画があるので期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し利用者の状態確認をしている。水分量は目安を表にして意識的に摂取を促している。法人の栄養士に食事バランスについて相談している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の木々の緑や、優しい日差し、鳥の鳴き声などが自然や季節を感じさせホッとする空間を作り上げている。昔、地域にあった思い出のお店の名を書いたタオルを壁に貼るなど工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗濯物を干したり、使い慣れた日用品を持ち込み、家族の写真や好きな花、手芸品などを飾って利用者思い思いの居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。